

## 令和7年度 吹田市自殺対策推進懇談会

日 時：令和7年12月25日（木）14：00～15：30

場 所：吹田市保健所 2階 講堂

### 開 会

- ・事務局より、傍聴者なし
- ・事務局より、資料の確認
- ・吹田市保健所長より挨拶
- ・各委員より自己紹介
- ・事務局の自己紹介

### ・委員長より挨拶

生活困窮者の法律相談事業等を行っているが、近年の物価高による生活苦の相談が増加傾向にあるため、このように役所を中心として連携を行う自殺対策の取組みは非常に大切だと認識している。本日は忌憚のないご意見をお願いしたい。

### 1 令和6年吹田市の自殺の状況

- ・事務局より、資料1「令和6年吹田市の自殺の状況」の説明

### 2 令和7年度吹田市自殺対策推進庁内会議 実務担当者会議報告

- ・事務局より、資料2「令和7年度吹田市自殺対策推進庁内会議 実務担当者会議(概要)」の説明

### (質疑、意見)

委 員：資料1で吹田市は20歳未満が全国よりも少し多いとのことだが、20歳未満の方の自殺の危機経路を教えてください。また、資料4の説明の「ゲートキーパー研修」とは何か。

事務局：地域自殺実態プロファイルにおける危機経路の代表的な例としては、20代学生であれば学内の人間関係のトラブルがあり休学し、うつ状態となり、自殺に至るといった経路や就職に失敗し、将来を悲観してうつ状態となり、自殺に至るといったような経路が示されている。

ゲートキーパー研修とは、周囲の人の自殺の危機を示すサインに気づいて、声をかけて、話を聞き、必要に応じて専門相談機関につなぎ見守ったりする役割を担う人材の育成で、第2次計画の取組にも位置付けられている。

委員：支援機関がゲートキーパーになるだけでなく、ちょっとした身近な人が声をかけ合えるような地域となるような対策が必要ではないかと感じている。

事務局：非常に大切なことだと考えている。市民を対象とした取組としては、障がい福祉室が「こころサポーター養成講座」を実施している。

委員長：10代20代の自殺者が多いことについて、例えば大学が多いなど推測されることはあるか。

事務局：原因については分析が難しいところである。ただ、本市は大学生の数が多く、相談も多く受けているが、学業も真面目に取り組んでいる学生が、無理をしてしんどくなる等、SOSが出しづらい若者が多いように感じている。

委員：資料4の消防や警察との連携について、具体的に教えていただきたい。また、若者の自殺者が多いため、教育関係の部署と様々な取り組みをしていると思うが、具体的な連携の例があれば伺いたい。

事務局：消防や警察との連携について、自殺未遂者相談支援事業を行っている。同事業では、自殺未遂行為があった場合、救急要請された消防から警察に連絡が入り、警察から本人や家族へ同事業を案内し、希望された場合、速やかに保健所に情報提供され、支援が開始となる。

教育関係部署との連携では、教職員向けのゲートキーパー研修を教育センターと共催で年一回実施している。今年度は教育センターからの要望があり、研修の機会を増やしている。小中学校からの個別相談では、学校としても不安を抱えながら対応されていることが多いため、要望に応じて、関わり方に関する嘱託医のコンサルテーションを実施している。また、高校、大学連絡会を通じて関係性が深まってきたことで、生徒向けのSOSの出し方教育等の依頼があり、学校の取組として実施している。

委員：小中学校、高校に対して、薬物乱用防止教室を毎年開催している。児童生徒に関しては、自分で相談先に繋がるというとなかなか難しいと感じている。信頼できる大人に相談をと伝えているが、具体的にどこかわからないように感じており、児童生徒の悩みをキャッチする受け皿を増やしていく必要がある。

委員：相談を受けて、生きづらさを抱える方や社会的孤立の方へのアウトリーチを行っている。

委員：民生・児童委員は全庁の自殺対策に関するあらゆる取組に関係しているが、乳児のいる家庭への民生委員の訪問については今後終了予定となっている。

副委員長：産後のあまり動けない時期の支援は非常に重要と考えている。精神科でもオンライン診療など検討しているが、実現が難しい面もある。

委員：若者の自殺未遂対応チーム事業（学校へのコンサルテーション）を行っているが、学校からは気軽に相談できるところが欲しいと話がある。大阪府では広域の対応となるため、地域に根差したきめ細やかな相談ができない。吹田市においては既に先進的に取り組んでいただいているが、今後も学校との連携等を充実させてもらいたい。

委員：専門の相談窓口も大事だと思うが、いつもと様子が違うと気づいた近所の人などが、連携して動いてくれるコミュニティができると理想的であると思う。

#### （その他意見・感想）

委員長：自殺に至る原因が一つではないように、対策についてもこれさえしておけば人が亡くならないということはない。このような庁内外での取り組みが連動することが大切であるため、引き続き全庁をあげて取り組んでいただきたい。

委員：本懇談会に参加することで、いろいろな取組みがなされていることがわかり、吹田市で安心して暮らすことができると感じた。

委員：どの年齢であっても相談ができるような地域になれば良いと思う。

委員：若者の自殺が身近な話題になりつつあるのを感じる。真面目な子ほど先生や保護者に「がんばれ」としか言われず、できなかった時に落胆したり、苦しくなる状況があるのではないか。そんな時に気付ける大人、子供にとって信頼できる大人になりたいと感じた。

### 3 その他

- ・事務局より、資料5「第2次吹田市自殺対策計画スケジュール」に基づき説明

閉会